



臼杵市西中は同校の学校林を生徒たちが守る「100年の森プロジェクト」を立ち上げました。
3年の佐藤世壺さん(15)の呼び掛けがきっかけです。

①佐藤さんがこのプロジェクトを提案したのはどのような理由からでしょう？



生徒会長の佐藤世壺さん

【臼杵】臼杵市西中(小野雅史校長、317人)は同校の学校林を生徒たちが守る「100年の森プロジェクト」を立ち上げた。3年の佐藤世壺さん(15)の呼び掛けがきっかけ。学校林の整備を通し、地域を巻き込んだ持続可能な社会の実現について考える。

佐藤さん企画

臼杵・西中プロジェクト

100年の森育てよう

今年1月に生徒会長に就任。学校や地域のためになる新たな取り組みを考えていた際に学校林の存在を知り、学校ぐるみで環境教育の場として活用できな
いかとプロジェクトを提案した。



学校林を訪れ、整備の重要性について学ぶ佐藤さん(右)＝臼杵市鎮南山

「先輩方の知識や思いを受け継ぎ、後輩にも伝え、100年の森に成長させる」と佐藤さん。小野校長は「今年は学校林70周年の節目。生徒からの提案に頼もしさを感じている。体験を通して自ら考え、行動する力を身に付けてもらえるようバックアップする」と話した。(衣笠由布妃)

佐藤さんは今年1月に生徒会長に就任。学校や地域のために新たな取り組みを考えていた際、約4キロ離れた鎮南山の二丁目付近に学校林があることを知った。広さは約6千平方メートル。70年前に当時の在校生と教員がヒノキの苗を植林したという。学校ぐるみで環境教育の場として活用できないかと、プロジェクトを提案した。

卒業生らが「西中学校林

卒業生と協力 学校林整備へ

守り育てる会をつくり、地道に手入れしていることを知り、協力を依頼。在校生が管理に加わる「バトンタッチ交流会」を本年度中に計画している。

新型コロナウイルスで臨時休校となった間も同会メンバーと現地へ足を運んで整備の重要性を学んだ。祖父が管理する森の間伐作業を体験するなど、交流会に向けて下調べと準備を着々と進める。

一連の活動は、教員に学びの場を提供する団体「先生の学校」(東京都)に注目され、オンライン講演の依頼を受けた。同団体によると、20歳以下の講師は初めてで、佐藤さんは5月、約170人の小中学校教員らに向け、画面越しに活動内容や目標を語った。

2020年6月9日付 大分合同新聞 14面

②学校林を守るためにどんな活動を計画していますか？

卒業生らでつくる「西中学校林を守り育てる会」に協力を依頼し、在校生が管理に加わる「バトンタッチ交流会」を本年度中に開く計画。

③記事には「同校は学校林の整備を通し、持続可能な社会の実現について考える」とあります。「持続可能な社会」とはどんな社会ですか？

地球環境や自然環境が適切に保存され、将来の世代が必要なものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会。

④持続可能な社会を実現するために、あなたができることを考えてみよう。

地球温暖化を防ぐため、生活の中でできる省エネを考える、海や森の環境に配慮した製品を選んで買う、ごみを減らし、分別して資源を有効に利用する…など。